

# 市費負担教職員制度が変わります！（案）

## 「少人数学級編制」から「少人数・複数指導」へ



### これまでの少人数学級編制

教育特区認定により

平成16年度から浮き城先生を導入

小学校1・2年 中学校1年

中2・3

小3 へ拡大



平成25年9月

行田市少人数学級編制検討委員会提言



平成27年度から

小中学校全学年において  
35人以下学級を実現

#### ◎成果

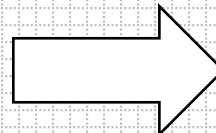
- ・学ぶ姿勢や規律ある態度は概ね達成
- ・きめ細やかな指導で学校に落ち着き
- ・少人数により教室にゆとり

#### ◎課題

- ・志願者減少により人材確保が困難
- ・経験不足による授業力の低下
- ・中学校は授業時数増による負担増



学力向上



新たな課題  
への対応

授業時数増加  
小中一貫教育



### これからの少人数・複数指導

○小学校1・2年・・・国の基準で35人学級

○中学校1年・・・国の基準で38人学級

クラスは増やさず  
人を増やします

#### 教育指導員（新・浮き城先生）として

- ① 小学校1・2年は1学級30人、3年は35人を超える場合に配置  
少人数指導（TT）、教科指導補助、個別指導、学級の補助などを実施
- ② 小学校4～6年は1学級35人を超える場合に配置  
一部教科担任制（専科指導）、少人数指導（TT）などを実施
- ③ 中学校2・3年は1学級38人を超える場合に配置  
少人数指導（TT）、教科指導補助（実験・実技）などを実施

#### 授業のサポーターとして

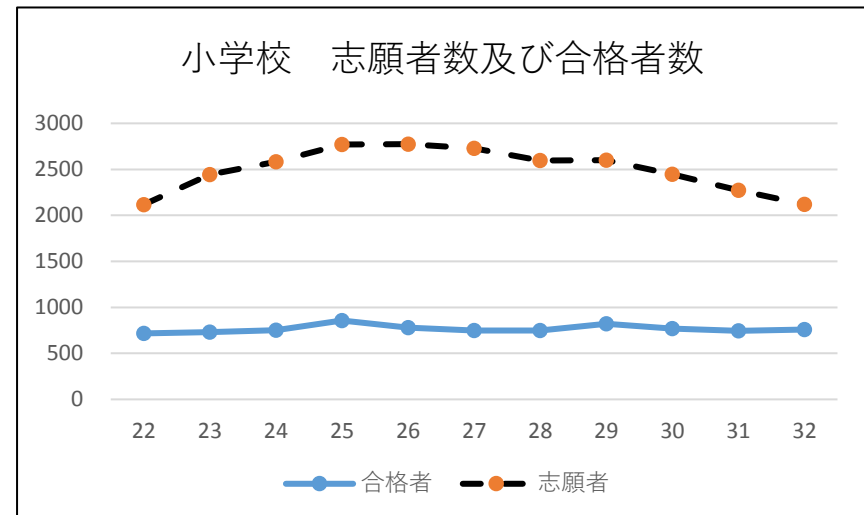
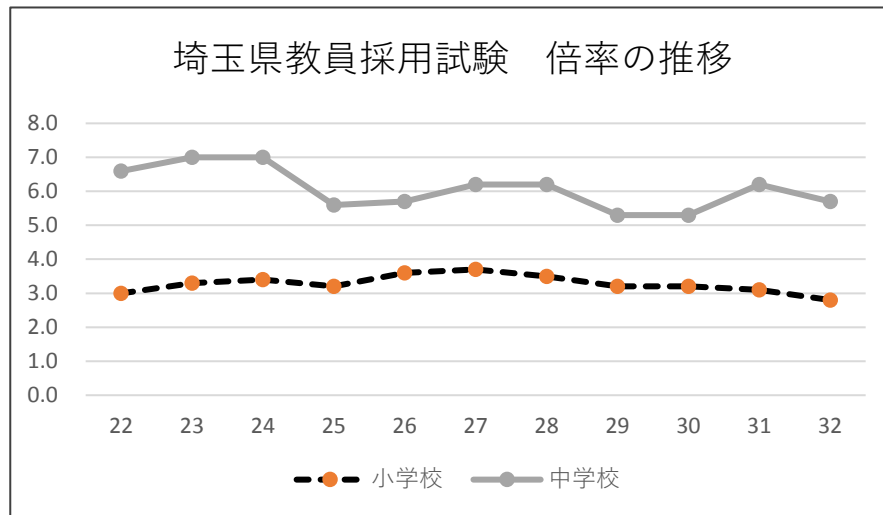
- ① イングリッシュサポーターの導入  
小学校5・6年において教科化される  
「外国語」の授業に配置  
※担任の授業を、ALTとともに補助します
- ② パワーアップサポーターの拡大  
小学校 対象：3～6年 教科：国語・算数  
中学校 対象：1～3年 教科：国語・数学・英語を中心に  
※これまでと比べて、対象学年と教科を拡大します



# 埼玉県教職員採用選考 倍率

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
小学校	3.0	3.3	3.4	3.2	3.6	3.7	3.5	3.2	3.2	3.1	2.8
中学校	6.6	7.0	7.0	5.6	5.7	6.2	6.2	5.3	5.3	6.2	5.7

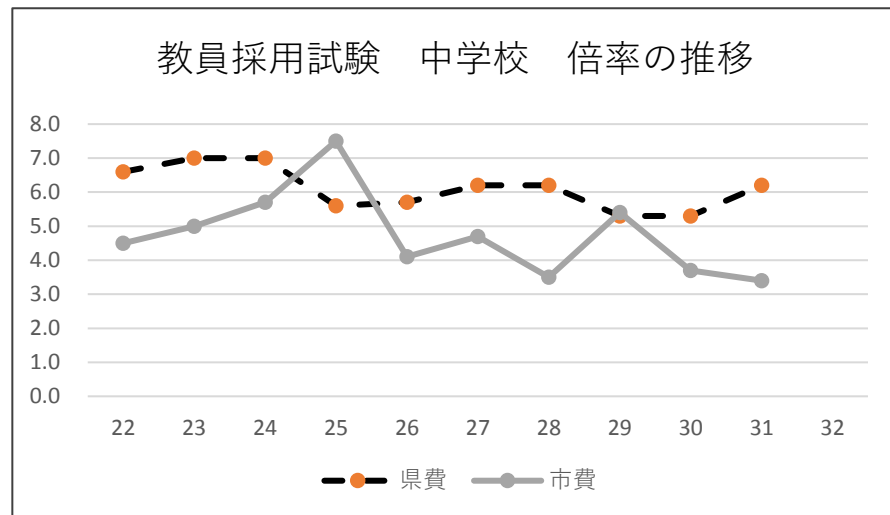
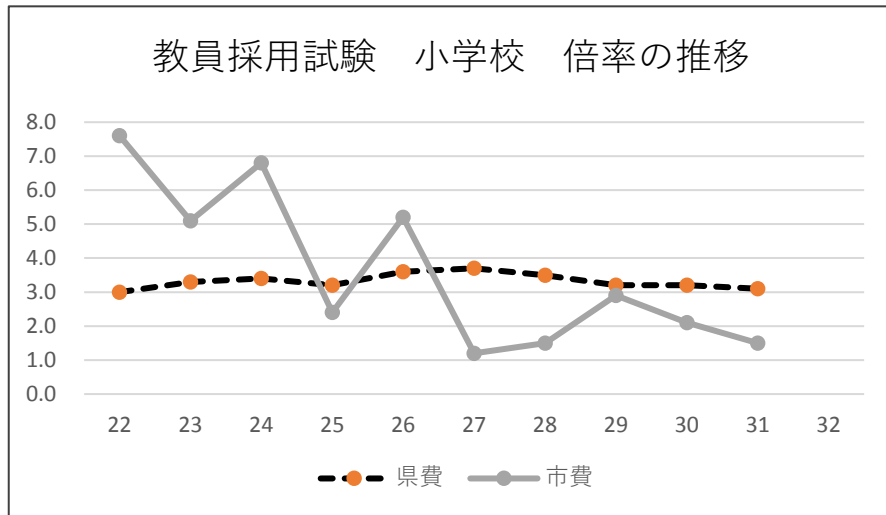
	年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
小学校	合格者	717	731	752	857	780	747	750	821	770	745	760
	志願者	2117	2444	2581	2771	2774	2730	2596	2598	2446	2274	2119
中学校	合格者	343	361	366	530	521	451	430	490	440	343	370
	志願者	2273	2519	2545	2959	2970	2814	2687	2598	2331	2139	2103



# 教職員採用選考 県費・市費 倍率

小学校	年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	県費	3.0	3.3	3.4	3.2	3.6	3.7	3.5	3.2	3.2	3.1	
	市費	7.6	5.1	6.8	2.4	5.2	1.2	1.5	2.9	2.1	1.5	

中学校	年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	県費	6.6	7.0	7.0	5.6	5.7	6.2	6.2	5.3	5.3	6.2	
	市費	4.5	5.0	5.7	7.5	4.1	4.7	3.5	5.4	3.7	3.4	



### 令和2年度児童・生徒数・学級数(予定)

令和2年		児童・生徒数							学 級 数									
									普 通 学 級							特別 支援	合計	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			
東	小学校	62	57	68	54	66	66	373	東	2	2	2	2	2	2	12	2	14
西	小学校	86	84	81	78	77	79	485	西	3	3	3	2	2	2	15	2	17
中央	小学校	65	52	70	57	61	69	374	中央	2	2	2	2	2	2	12	4	16
南	小学校	32	45	51	45	38	51	262	南	1	2	2	2	1	2	10	2	12
北	小学校	44	56	60	49	53	54	316	北	2	2	2	2	2	2	12	2	14
北河原	小学校	1	5	6	2	5	3	22	北河原	1	1	1	1	1	3	1	4	
荒木	小学校	22	17	24	16	14	24	117	荒木	1	1	1	1	1	1	6	2	8
須加	小学校	7	4	11	9	6	8	45	須加	1	1	1	1	1	4	1	5	
埼玉	小学校	32	35	36	48	41	36	228	埼玉	1	1	1	2	2	1	8	2	10
星宮	小学校	6	7	17	3	16	13	62	星宮	1	1	1	1	1	1	6	0	6
太田西	小学校	43	33	43	37	32	46	234	太田西	2	1	2	1	1	2	9	2	11
太田東	小学校	10	11	8	9	12	16	66	太田東	1	1	1	1	1	1	6	1	7
下忍	小学校	17	11	15	9	16	18	86	下忍	1	1	1	1	1	1	6	1	7
泉	小学校	86	65	76	80	77	92	476	泉	3	2	2	2	2	3	14	2	16
桜ヶ丘	小学校	27	38	33	41	27	40	206	桜ヶ丘	1	2	1	2	1	1	8	2	10
南河原	小学校	31	13	32	24	17	27	144	南河原	1	1	1	1	1	1	6	2	8
小 学 校 計		571	533	631	561	558	642	3496	計	24	23	23	23	21	23	137	28	165

忍	中学校	80	109	111				300	忍	3	3	3				9	2	11
行田	中学校	95	87	89				271	行田	3	3	3				9	1	10
長野	中学校	163	139	153				455	長野	5	4	4				13	2	15
見沼	中学校	46	25	30				101	見沼	2	1	1				4	1	5
埼玉	中学校	55	44	48				147	埼玉	2	2	2				6	2	8
太田	中学校	57	62	61				180	太田	2	2	2				6	2	8
西	中学校	140	133	119				392	西	4	4	3				11	2	13
南河原	中学校	31	31	29				91	南河原	1	1	1				3	1	4
中 学 校 計		667	630	640				1937	計	22	20	19				61	13	74
合 計								5433								198	41	239

#### 【浮き城先生として 教育指導員の配置】

- ① 小学校1～2年生は1学級30人、3年生は35人を超える場合に配置 10人
- ② 小学校4～6年生は1学級35人を超える場合に配置 9人
- ③ 中学校2～3年生は1学級38人を超える場合に配置 2人
- ④ 複式学級対策(北河原小3人・須加小2人) 5人

# 行田市少人数学級編制検討委員会「報告書」概要

制度の導入から15年が経過し、一人一人に行き届いた教育により「学ぶ姿勢や規律ある態度を育む」ことは、概ね達成されているように思われる。現在では「確かな学力の育成」について対応するための制度として内容を見直す時期に来ている。さらに、2020年から実施される新学習指導要領に伴う授業時数の増加や小中一貫教育の推進など、新たな課題に対応するためにも、今後の少人数学級の編制の在り方を検討することとなった。

## 1 現在行田市が実施している主な教育支援について

### (1) 少人数学級の編制に対応する教員

#### ① 浮き城先生 常勤 1日7時間45分勤務

- ・1学級の児童生徒の数の基準を35人とし、増えた学級数に対応する教員を配置
- ・学級担任又は担任外として、校務分掌、部活動の顧問も担当

#### ② 教育指導員週 5日、1日7時間勤務

### (2) その他の教育支援

#### ① パワーアップサポーター 週3～4日、1日2～4時間勤務

- ・小学校3・4年生の算数の授業にベテランの教員経験者を配置

#### ② 複式学級対応学校教育指導員 週2～3日、1日6～7時間勤務

- ・2つの学年が1つの学級となる場合、学年ごとに授業を実施する教員を配置

## 2 委員の主な意見

### (1) 良いと思う点

- ・一人一人にきめ細やかな指導ができる。
- ・学校に落ち着きが見られる。
- ・1学級の人数が少なければ、教室にゆとりがある。
- ・小1プロブレム、中1ギャップに対応することができる。
- ・学力差を埋めることができる。

### (2) 改善することが望まれる点

- ・浮き城先生の人材の確保が難しい。
- ・学校にはベテランの先生の経験知が必要。
- ・浮き城先生や若い先生の質の低下や指導力不足を感じる。
- ・若手教員の研修の時間が必要になってしまう。
- ・中学校では学級が増えると授業時数が増えてしまう。

## 3 アンケートに記入されていた主な意見

### (1) 良いと思う点

- ・子供一人一人に目が行き届き、きめ細やかな指導ができる。
- ・子供の数が少ないので教員の負担軽減になる。
- ・教室に余裕ができて、机間指導もしやすく、学習面で効果的である。
- ・先生が児童一人一人と向き合い、学習や生活指導を行う事が出来ている。
- ・児童の発表機会も増え、学習に取り組む姿勢につながっている。
- ・いじめ、不登校等の未然防止、早期対応に効果的である。
- ・人員が増えたことで、中学校においては荒れがなくなった。

(2) 改善することが望まれる点

- ・浮き城先生の人材確保が難しくなっているのではないかと。
- ・中学校では1学級増えることで教科によっては授業時数も増え、逆に負担が増える。
- ・1・2年生は30人以下にするべきではないかと。
- ・高学年だと体も大きく教室が狭く感じるため、35人でも多い。
- ・40人から35人以下にしても学力向上にはつながらないと感じる
- ・学級を増やすのではなく、パワーアップサポーター、教育指導員のように授業の補助を行う方が、学力向上を目的とするならば良いのではないかと。
- ・ここ2年間見ていると、浮き城先生の指導力に疑問を感じる。
- ・浮き城先生の採用に際し、経験が豊富で質の高い先生の確保を望む。

(3) 今後、学校にどのような教育支援があると望ましいか

- ・少人数学級の編制は、可能な限り続けてほしい。
- ・少人数学級に係わる教育指導員は、今後も低学年での教育の充実を図るために良い。
- ・先生方の負担が減り、生徒一人一人に目が届きやすい教育支援を望む。
- ・教科指導の教員がいれば、学級を分けてTTの授業もでき、細やかな指導が望める。
- ・専門的な教科の指導が行える教員の配置があるとよい。
- ・小学校にも英語、理科、音楽、体育、書道等の専門教員がいるとありがたい。
- ・教科指導支援員の先生を増やしてほしい。特に理科の場合、少人数とはいえ、準備や片付けの負担は変わらないため。
- ・学級数は国や県の基準とし、パワーアップサポーターや教科指導支援員など学校職員や授業の補助をする教職員が増えるのが望ましい。
- ・パワーアップサポーターの拡大。他の学年、他の教科（算数以外）、中学校等へ幅を広げてみてはどうか。

#### 4 少人数学級編制検討委員会による検討結果

発達段階において落ち着いた状況に陥りやすい小学校3年生までは、引き続き少人数での学級編制が必要であると考え。そして、社会の急激な変化に対応できる「確かな学力の育成」のためには、教科を専門に指導する教員や少人数指導に対応する教員やパワーアップサポーターの拡充が効果的であると考え。さらに、新学習指導要領に伴う授業時数の増加や小中一貫教育の推進など新たな課題に対応するための教育支援も必要である。

(1) 小学校の例

- ・1・2年生は、1学級の児童の数が30人を超える学年に教育指導員を配置する。
- ・4年生以上は、1学級の児童の数が35人を超える学年に英語などの教科等を指導する教員や少人数指導に対応する教員など学習の充実を図るための教員を配置する。

(2) 中学校の例

- ・1学級の生徒の数が35人を超える学年には、教科を指導する教員や少人数指導に対応する教員など学習の充実を図るための教員を配置する。

(3) その他の例

- ・今まで少人数学級の編制の対象にならなかった学校においても、学校の実情に合わせ学習の充実を図るための教員を配置する。
- ・複式学級対応学校教育指導員等の配置は、引き続き実施する。
- ・様々な教育支援のために配置される教職員を総称して「新・浮き城先生」とするのはどうか。

これまでの少人数学級の編制の良い点を活かし、新たな枠組みとして児童生徒に対し今まで以上の手厚さで寄り添い、併せて学校の実情に即した教育支援を期待する。